

海の森の 「思想」と「スキンケアにおける立ち位置」

1. 海の森の考え方

海の森が変えるのは、スキンケアの「あり方」です。

「肌をケアする」から、
「肌が働ける環境をつくる」へ。

従来のスキンケアは、

- ・ 肌に何を与えるか
- ・ どの成分を使うか
- ・ どんな悩みに対応するか

という、成分・機能を中心とした発想です。

海の森は、

肌が本来の力を発揮できる環境を、毎日つくる。

という、生体界面環境を中心とした発想です。

2. 従来との違い

今まで

肌に「何をつけるか」という
保湿型 Daily Skin Care

海の森

肌が「働ける環境をどうつくるか」という
環境設計型 Daily Skin Care

つまり、

従来のスキンケア	海の森
成分設計	環境設計
何を入れるか	どんな環境をつくるか
有効成分を選ぶ	生体界面環境全体を設計する
肌をケアする	肌が働ける環境をつくる
足す	整える
商品中心	生体界面中心

従来のスキンケアが「成分設計」なら、
海の森は「生体界面環境設計」です。

3. 海の森が新しくするもの

海の森は、単に「新しい化粧品カテゴリーを一つつくる」という話ではありません。

「Daily Skin Care とは何か」というカテゴリーそのものを再定義する。

従来は、

化粧水・乳液・クリームなどの保湿型 Daily Skin Care
＝ 肌に必要なものを毎日補う

だった。

海の森では、

環境設計型 Daily Skin Care
＝ 肌が本来の力を発揮できる生体界面環境を毎日
つくる

になる。

ここに、海の森の新しさがあります。

4. 海の森を一言で表すなら
肌に何を与えるかではなく、
肌が働ける環境をつくるスキンケア。

これが、海の森の「環境設計型スキンケア」です。

そして、

「新しい化粧品を一つ増やす」のではなく、
「Daily Skin Care とは何か」を再定義する。

それが、海の森の立ち位置です。

5. Daily Skin Care と Special Skin Care

ここで、Daily Skin Care と Special Skin Care の役割も明確になります。

Daily Skin Care

肌が本来の力を発揮できる環境を、毎日つくる。

Special Skin Care

シミ・シワ・たるみなど、特定の「なりたい肌」の結果を目指す。

海の森は、Special Skin Care を否定するものではありません。

むしろ、

Special の前に Daily がある。

という新しい関係をつくれます。

6. 海の森の核心

今まで: 肌に「何をつけるか」。

海の森: 肌の「環境をどうつくるか」。

海の森が変えるのは、
化粧品そのものだけではありません。

スキンケアの「あり方」そのものです。

この構成:「思想 → 従来との違い → 環境設計
→ Daily Skin Care の再定義 → Special との関係 →
結論」という一本のストーリー。

海の森が「新商品」ではなく、「Daily Skin Care」という
カテゴリーそのものの考え方を変える存在だという位
置づけが明確。

「思想」と「立ち位置」は、「海の森を使うと、最終的に何が起こるのか」を説明するための“土台”として非常に重要です。

「思想」と「立ち位置」は、

なぜ海の森が従来のスキンケアと違うのか

を説明しています。

一方、

だから、海の森を使うと何が期待できるのか

は、まだ別の階層です。

この2つを分けると、かなり強い構造になります。

つまり、こういう関係です

① 思想・方法論

肌をケアする

↓

肌が働ける環境をつくる

↓

② 海の森が毎日つくるもの

肌が本来の力を発揮できる生体界面環境

↓

③ その結果として期待する肌の状態

トラブルが起きにくい肌

なりたい肌を目指しやすい肌

メイクのノリがよい肌

化粧映えする肌

etc.

という流れです。

つまり、「なりたい肌になる」「トラブルが起きにくい」「メイクのノリが良い」「化粧映えする」などは、海の森の思想そのものではなく、その思想・方法論によって目指す“結果”の側です。

ここはかなり重要です

たとえば、

海の森は、肌を直接「変える」のではなく、
肌が本来の力を発揮できる環境を毎日つくる。

という考え方があって、

その先に、

だから、肌のコンディションが整いやすくなる。
トラブルが起きにくい肌を目指せる。
メイクのノリがよくなる。
化粧映えする。

というユーザーにとってのベネフィットが来る。

この構造なら、単なる「きれいなコンセプト」ではなく、
「なぜその結果を目指せるのか」という根拠の筋道に
なります。

ただし、「なる」は少し慎重に
ここはブランド表現として、

「海の森を使ったら、なりたい肌になる。」

と断定するより、

海の森を使うことで、肌が本来の力を発揮できる環境を毎日整える。

その結果、健やかな肌状態を保ちやすくなり、トラブルが起きにくい肌、メイクのノリがよい肌、化粧映えする肌を目指しやすくなる。

のように、「環境をつくる → 肌状態を整える → その先の美容実感」という順番にすると、今の思想と矛盾しません。

そして、ここまで整理した内容を一言で言えば、

海の森の「環境設計型 Daily Skin Care」は、肌を直接
変えようとするのではなく、肌が本来の力を発揮でき
る環境を毎日つくる。

そのことが、さまざまな「なりたい肌」の土台になる。
という位置づけです。

これなら、「思想・立ち位置」の章が、そのまま「海の
森を使うとどうなる？」というベネフィットの章の根拠
になります。

海の森の説明は「思想 → 方法論 → Daily Skin Care の再定義 → 肌への結果」という4段階で整理するのが一番きれいです。

海の森の全体構造

1. 思想:何を変えるのか

海の森が変わるのは、スキンケアの「あり方」です。

「肌をケアする」から、
「肌が働ける環境をつくる」へ。

ここが海の森の思想の核心。

2. 方法論:何をするのか
従来は、

肌に「何をつけるか」

という成分・機能中心のスキンケア。

海の森は、

肌が「働ける環境をどうつくるか」

という環境設計型 Daily Skin Care。

つまり、

成分設計 → 生体界面環境設計

へ発想を変える。

3. カテゴリー:何を再定義するのか
ここから、海の森の立ち位置につながります。

「Daily Skin Care とは何か」というカテゴリーそのものを再定義する。

従来の Daily Skin Care が、

肌に必要なものを毎日補う

だったのに対して、

海の森の Daily Skin Care は、

肌が本来の力を発揮できる生体界面環境を毎日つくる。

となる。

だから海の森は、「新しい化粧品を一つ増やす」存在ではなく、「Daily Skin Care というカテゴリーの考え方を変える」存在になる。

4. 結果:海の森を使うと何を目標せるのか
そして、ここで初めてユーザーにとってのメリットにつながります。

肌が働ける環境を毎日つくる

↓

肌本来の力を発揮しやすい状態を目指す

↓

その先に、

- ・ トラブルが起きにくい肌
- ・ 健やかな肌状態
- ・ なりたい肌を目指しやすい状態
- ・ メイクのノリがよい肌
- ・ 化粧映えする肌

などの美容上の実感・結果がある。

一番重要なつながり
つまり、

肌を変えようとする
↓
肌が働ける環境をつくる
↓
肌本来の力を発揮しやすくする
↓
その先の「なりたい肌」につながる

という構造です。

これなら、「トラブルが起きにくい」「メイクのノリがいい」「化粧映えする」といったベネフィットが、単なる羅列ではなく、海の森の思想から導かれる結果として位置づけられます。

そして最終的には、

海の森は、肌を変えるのではなく、肌が働ける環境をつくる。

だから、Daily Skin Care そのものを再定義する。

そして、その環境が、さまざまな「なりたい肌」の土台になる。

ここまでが一本のストーリーになります。

これが、今までの議論を一番シンプルに統合した形です。